



## 堅実で大胆な未来戦略

精密工業用ヤスリ「魚地球印」の製造で知られる広島鍛業。古希の社長が、長年培ってきた技術を継承する、日本のモノづくりには欠かせない希少な企業。7年前、中洲紀子さんはその3代目社長に就任した。先代が築いた会社の伝統を堅持しながらも、“固定概念に捉われない”モノづくりを念頭に置き、柔軟な発想で新しい分野に挑んでいる。専業主婦から社長へ180度転身し、新たな路線に舵を切った中洲さんに、モノづくりへの探究心と今後の経営戦略について尋ねた。

LOCATION 東京国立博物館

中

洲

紀

子

Noriko Nakazu

# 「新たな分野に進出することで、 ヤスリのイメージを変えていきたい」

——最盛期には120軒あったヤスリメーカーが、いま3分の1に激減したと言われています。そういう厳しい状況の中で、広島鍼製造所が生き残ってこられた最大の理由とは何だと思いますか？

価格と高度な技術の継承ですね。良いものを安く提供してきたことをお客様から評価していただけたのだと思います。弊社の商品はさまざまなく愛用されていますが、代理店の担当者が海外へ行つて一生懸命売つてくださっています。とくにギターヤスリなどは、半年先までオーダーが入っている。そういう周囲の力添えも理由の一つですし、とても感謝しています。

——ただ、技術を継承するだけでは一部の伝統工芸のように衰退する企業もあることは確かです。新たな商品開発・経営戦略も必要かと思いますが？

たしかにそうですね。先々代、先代が築いた歴史、最高の品物をリーズナブルな価格で、という伝統は崩したくないというのが基本的な姿勢ではあります。ですが、伝統にあぐらをかけて、今までの製品だけでよしとしていたのでは時代に取

り残されてしまうことも事実です。時代に即した新しい製品も出していかないといけない。ギターヤスリのようにこれまでとは違う業界で使われるヤスリ、新しい分野のヤスリの開発にも着手しています。

たとえば、美容業界で使われる爪ヤスリです。若い世代ではネイルアートも盛んでし、美容業界にも受け入れられるのではないかと。パッケージデザインにも力を入れることで、プレゼントとしての需要もあるはずです。美容業界に限つた話ではないですが、これからも新たな分野に進出していくことで、ヤスリのイメージを変えていきたいですね。

——新たな改革という点では、若い人材も多くの雇用していると聞きました。より技術の継承が重要度を増しますね？

はい。とくに私が社長に就任してから、若い人材の雇用は積極的に行うようにしています。会社の存続を考えるうえでも、とても重要な人材ですから。その一方で、高度な技術に追いつかず、製品のクレームにつながってしまうこともあります。ですが、それも覚悟のうえで任せています。人材を育てていくために大切なことは、任せてあげることなんです。たとえ技術が伴わない若い人材であつても、信頼して、経験を積ませてあげることが大事です。後に立派な職人になるために、多くの経験としつかりとした技術を身につけていく場が必要ですから。

私がHPを作成したことは、会社の姿勢を広く世間にアピールするだけでなく、類似品の横行を食い止めるという狙いもありました。とても残念なことですが、平成20年より魚地球印の類似商品は世の中に出て回るようになりました。弊社の製品を愛用してくださるお客様を守るために

も、公明正大に、『類似品をご注意ください』とHP上で呼びかけたんです。そういう取り組みも、メーカーとしての大きな責任だと思っています。

重なのだという裏返しもあります。そして、それが技術の継承になっていくのだと考えています。

——人材育成も大切な経営戦略の一つと言えますが、それとは別に、設備投資による機械化なども並行して考えられていますか？

——若い人材だけでなく、女性の雇用も増やしているそうですが？

製造業の現場は男社会というイメージもありますが、モノづくりに性別は関係ありません。とにかくモノづくりが好きな人、手先が器用な人、女性で言えば内職的なことが好きな人など、その人の気質の方が大事だと思っています。学校の成績も関係ありません。モノを作ることが好きかどうか、重要なことはただそれだけなんです。

——政府は女性の活躍を成長戦略の中核に据えています。その反面、先進国における女性管理職の割合は日本は最低レベルです。女性の社会進出は喫緊の課題の一つと言えますが、そのあたりについてはどうお考えですか？

ビジネスを志す人間として、経営者として、そういうことをむやみに批判しようとは思わないですし、性別でむやみに批判するような経営者もどうかと思います。その意義がよくわかりません。少なくとも、戦後の日本のモノづくりがここまで発展してきたのも、男性が一生懸命働いてきたからです。その根幹を忘れちゃいけないというのは、すごく感じています。

ただ、私も社長に就任する前は専業主婦でした。ですので、女性ならではの観点というものは大事にできればと考えています。先ほども言つた通り、女性には男性はない発想や感覚、器用さなどがあります。それは活かしていった方がいいと思いますね。



## 「モノをつくることが好きかどうか、重要なことはただそれだけ」

機械化したらどうか、という意見もたしかにありました。が、過剰な設備投資は絶対にしません。なぜなら、どんなに機械化しても品質を左右するのは人間の手だからです。ロボットに目はありませんが、職人には正確な目があります。一本一本、製品をその目で確認しながら仕上げる。それが大事なのです。

たとえば、ヨーロッパの有名なヤスリメーカーがありますが、値段がものすごく高い。その理由の一つが、高価な機械を導入していることです。巨額の設備投資をすれば採算が合わないのは当然です。どうしても価格は高くなってしまう。当社では、過剰な設備投資はせず、職人の手でまかなえる範囲でやっていこうと思っています。そういう考え方を軸にした堅実な経営戦略が、質の高い製品を生んでいくのだと確信しています。

——最後に、日本経済が厳しい状況が続くなかで、広島鍼製造所の役割は何だとお考えですか？

やはり、私達のようなモノづくりに深く関わる業態というのは、縁の下の力持ちじゃないんですけど、すべてを支える土台のような役割を担っていると思っています。製造業を縁の下で一生懸命支えるうちの小さな会社がなくなると、日本のモノづくりは根底から崩れてしまう。大げさに言えは日本経済が崩壊します。そのくらいの危機感や責任感を持つてないと経営は成り立ちません。そういうことにならないように、これからもしつかり日本のモノづくりを支えていきたいなと思っています。

**Noriko Nakazu**

1959年生まれ、広島県出身。株式会社広島鍼製造所代表取締役。豊富な社会経験を積んだ後、先代の後を継ぐ形で同社三代目社長に就任。持ち前の行動力とハイタリティを武器に、会社を牽引。日本のモノづくりを支える道具「ヤスリ」の製造に注力するだけでなく、若い人材の育成にも精力的に取り組んでいる。